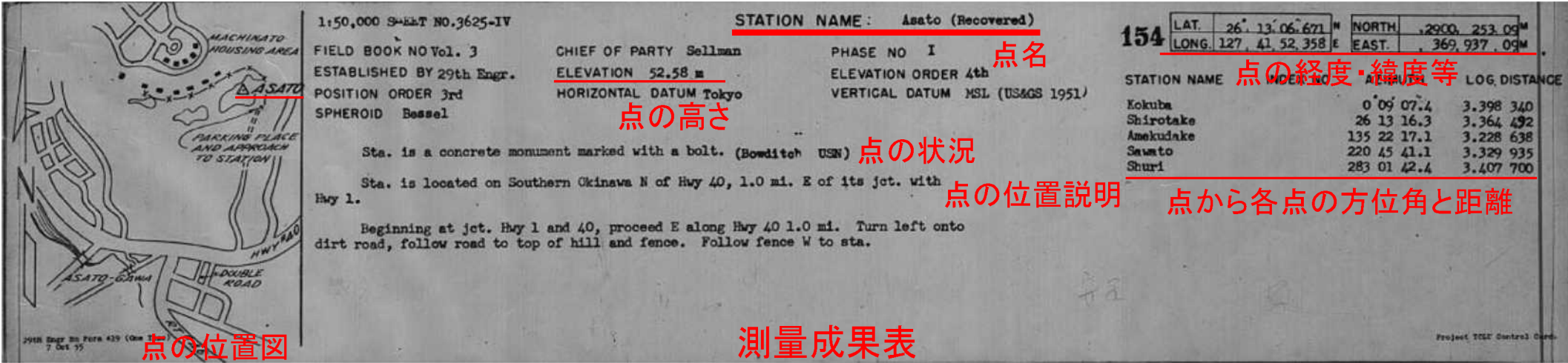


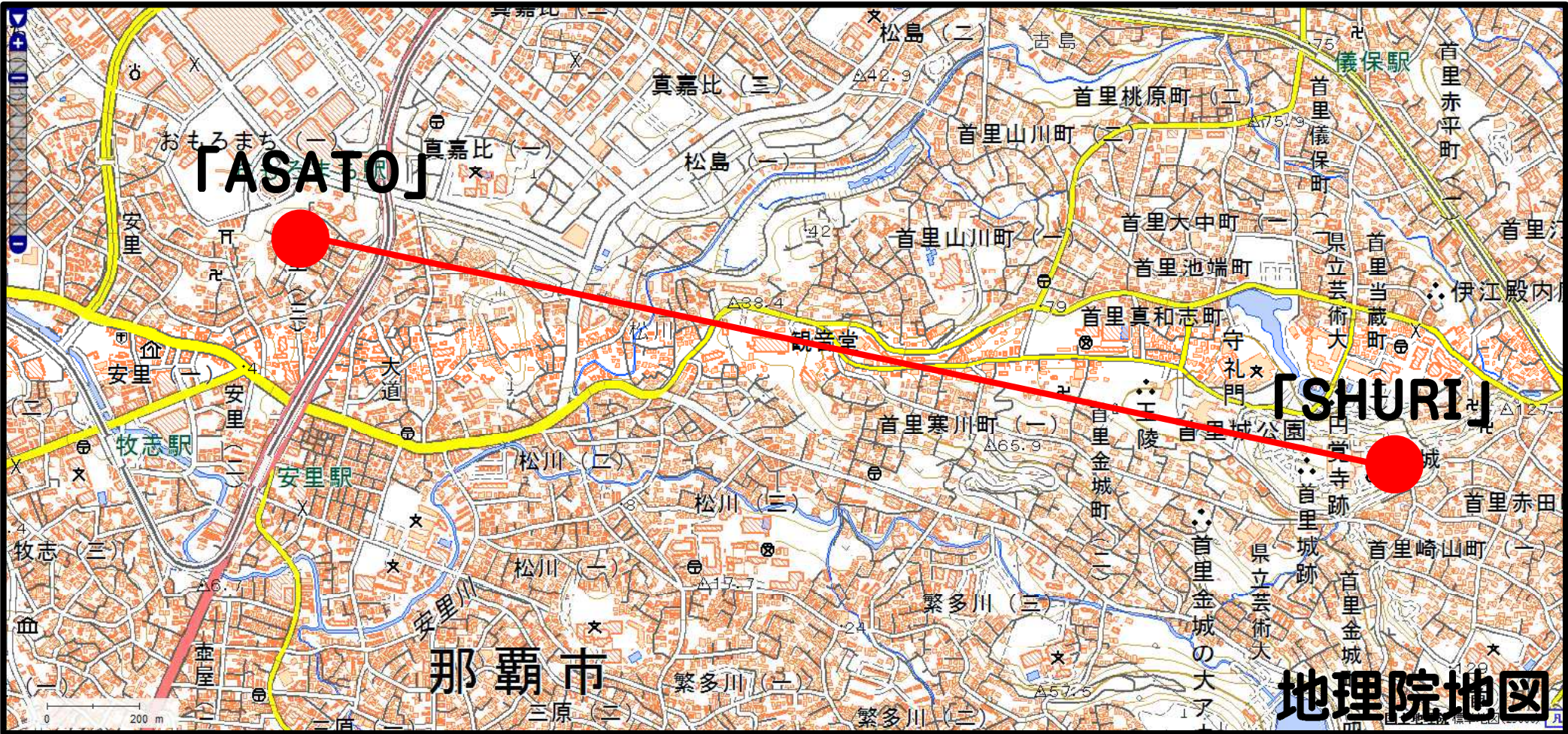
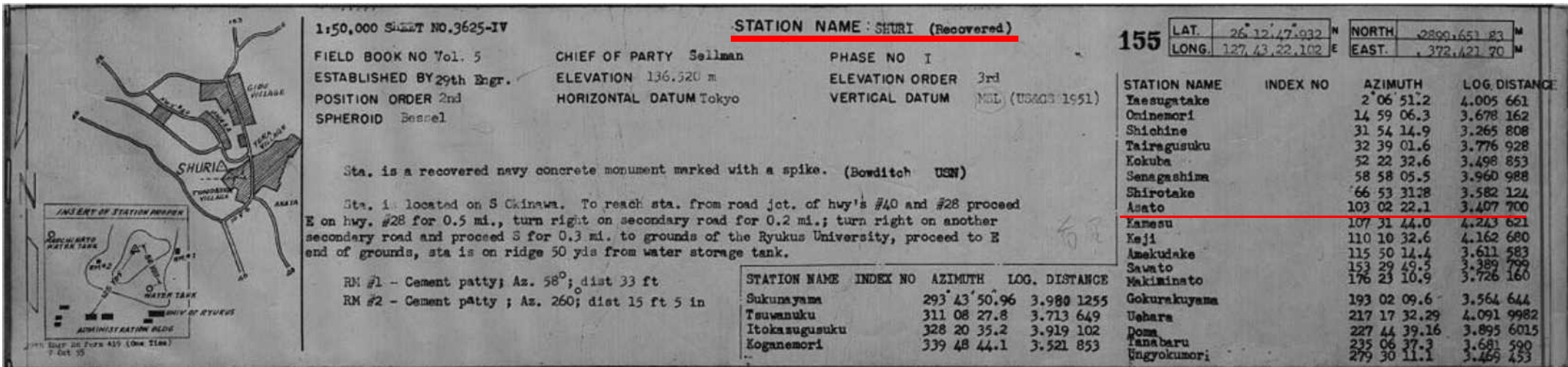
米軍の測量成果表

米軍は、終戦後の昭和22年に4千8百分1地形図、2万5千分1地形図作成のために三角測量を行い三角点や標定点約300点近くを設置し、「測量成果表」を作成しています。

点名:「ASATO」



点名:「SHURI」



米軍が作成した地図

米軍は、戦後、沖縄の地図を何種類か作成しています。作成に当たっての基準点などは、陸地測量部が設置した三角点や地形図なども活用したと考えられます。

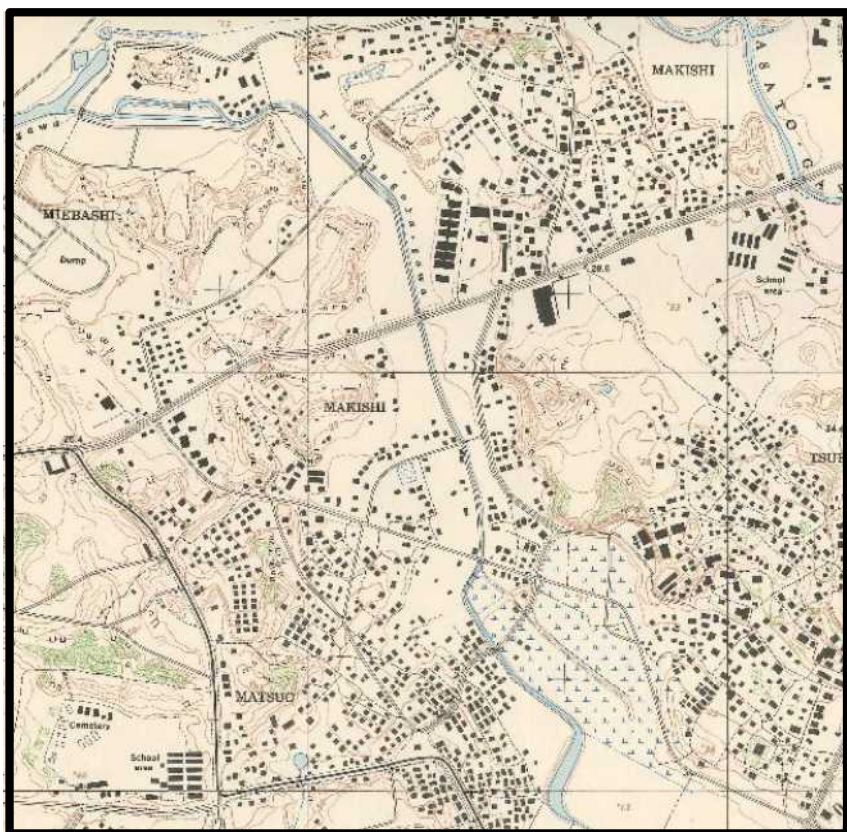
ここでは、4千8百分1地形図「TSUBOYA」と2万5千分1地形図「NAHA」を展示します。

4千8百分1地形図

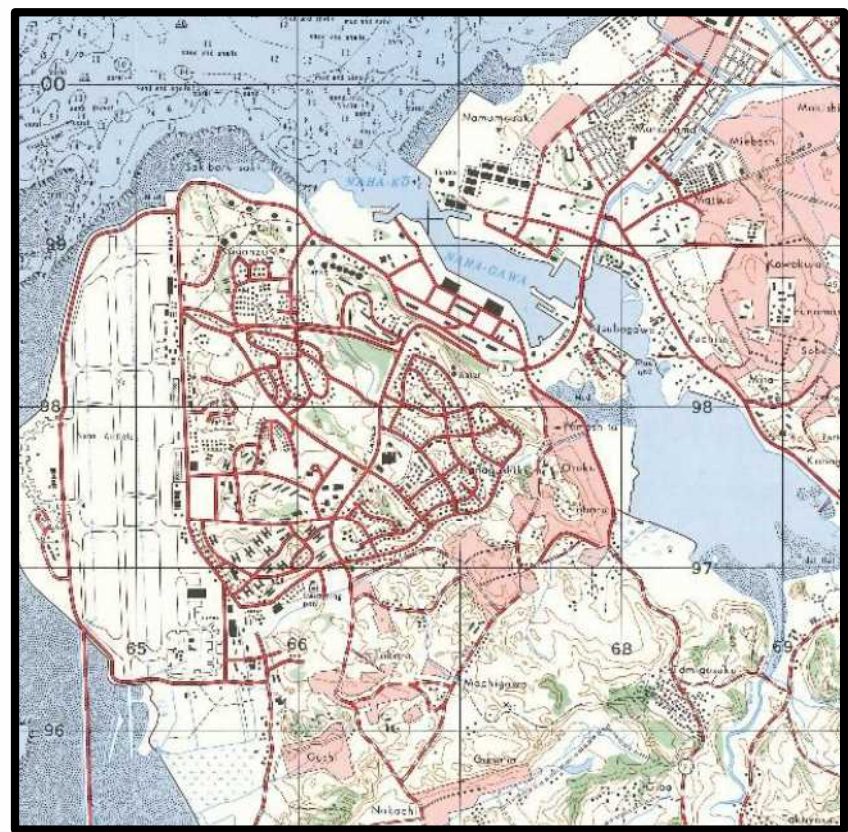
沖縄本島では、小・中縮尺以外に大縮尺で作成された地図があります。使用された航空写真は、昭和22年(1947年)から翌年にかけて撮影されたもので、軍施設などの建設工事に作られたと考えられます。

2万5千分1地形図

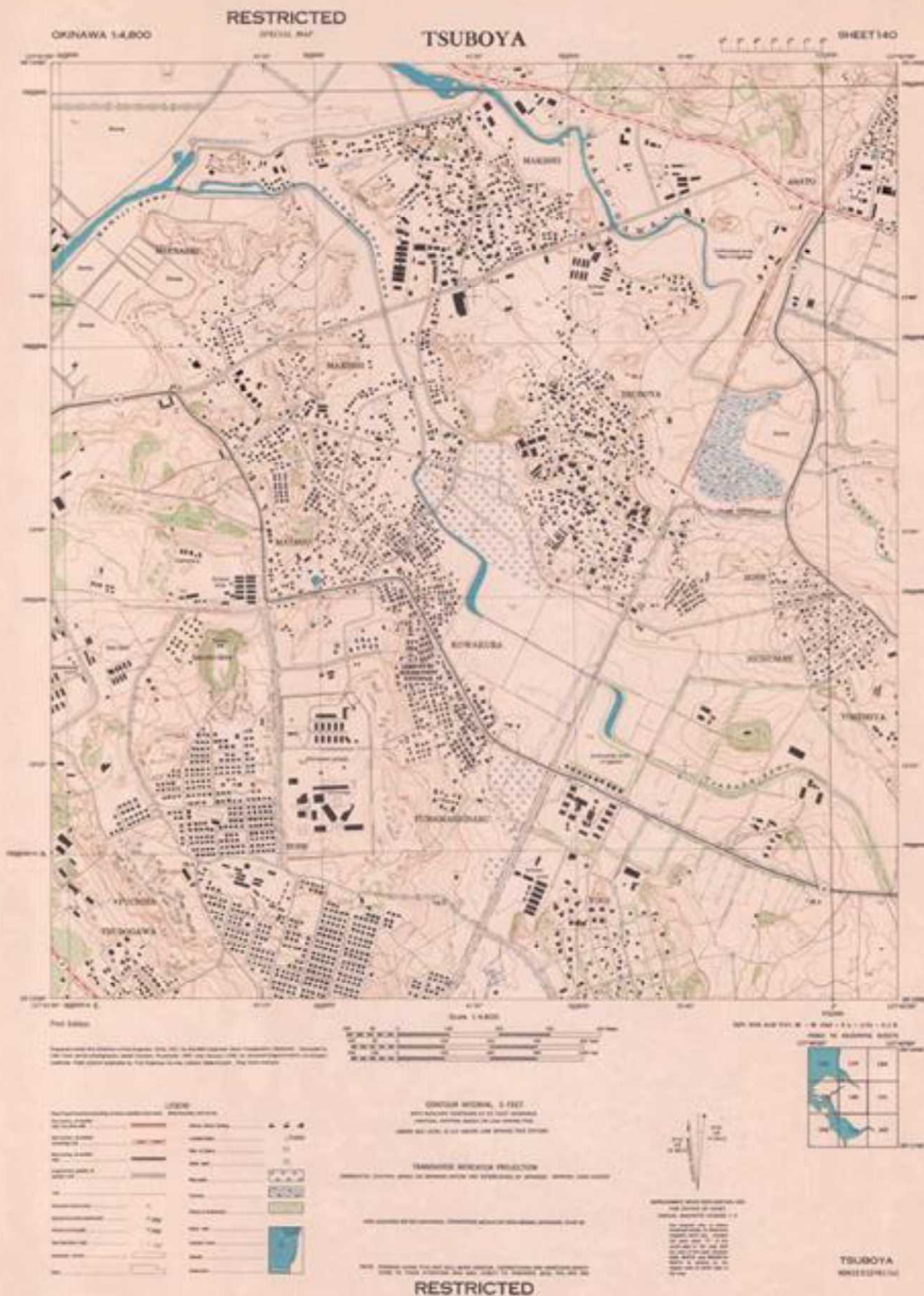
この図は、旧米国陸軍地図局が昭和33年(1958年)に作成したものです。軍事目的ということで、軍飛行場や軍事施設、軍用道路などが細かく表示されています。また、地形も当時の海岸線などがよくわかります。



4千8百分1地形図
「TSUBOYA」縮小

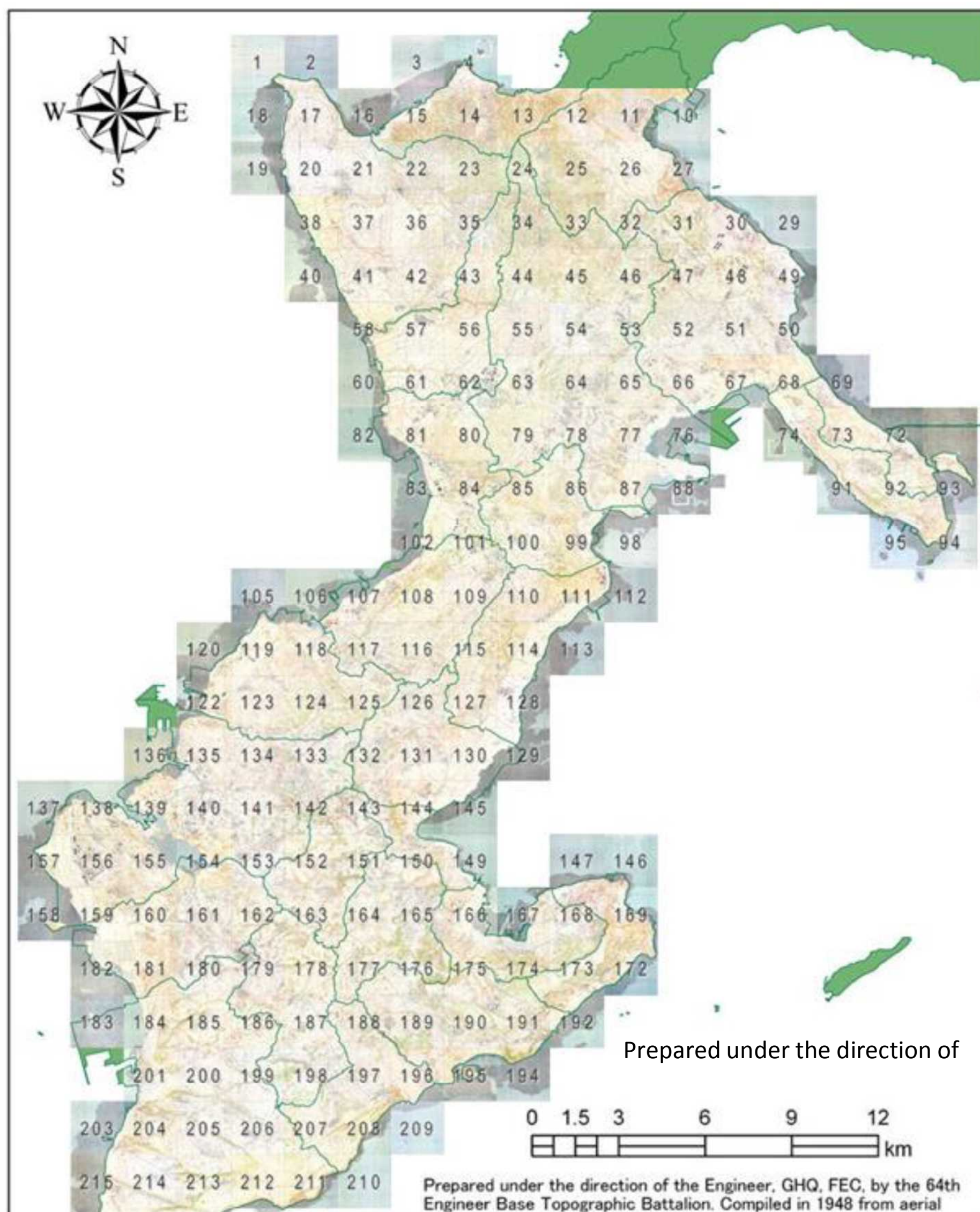


2万5千分1地形図
「NAHA」縮小



沖縄本島中南部(試験公開中)

番号をクリックすると図葉を拡大表示できます。



琉球政府が設置した基準点

琉球政府は、地籍調査のための基準点測量を行い、四等三角点の設置を行っています。この標石はコンクリートで作成されました。コンクリートは劣化が激しいため、復帰後、国土地理院によって御影石の標石に交換されました。



点名 四等三角点「新里」 1/5万地形図 仲宗根



正面側「四等三角点」



裏面側「琉球政府」

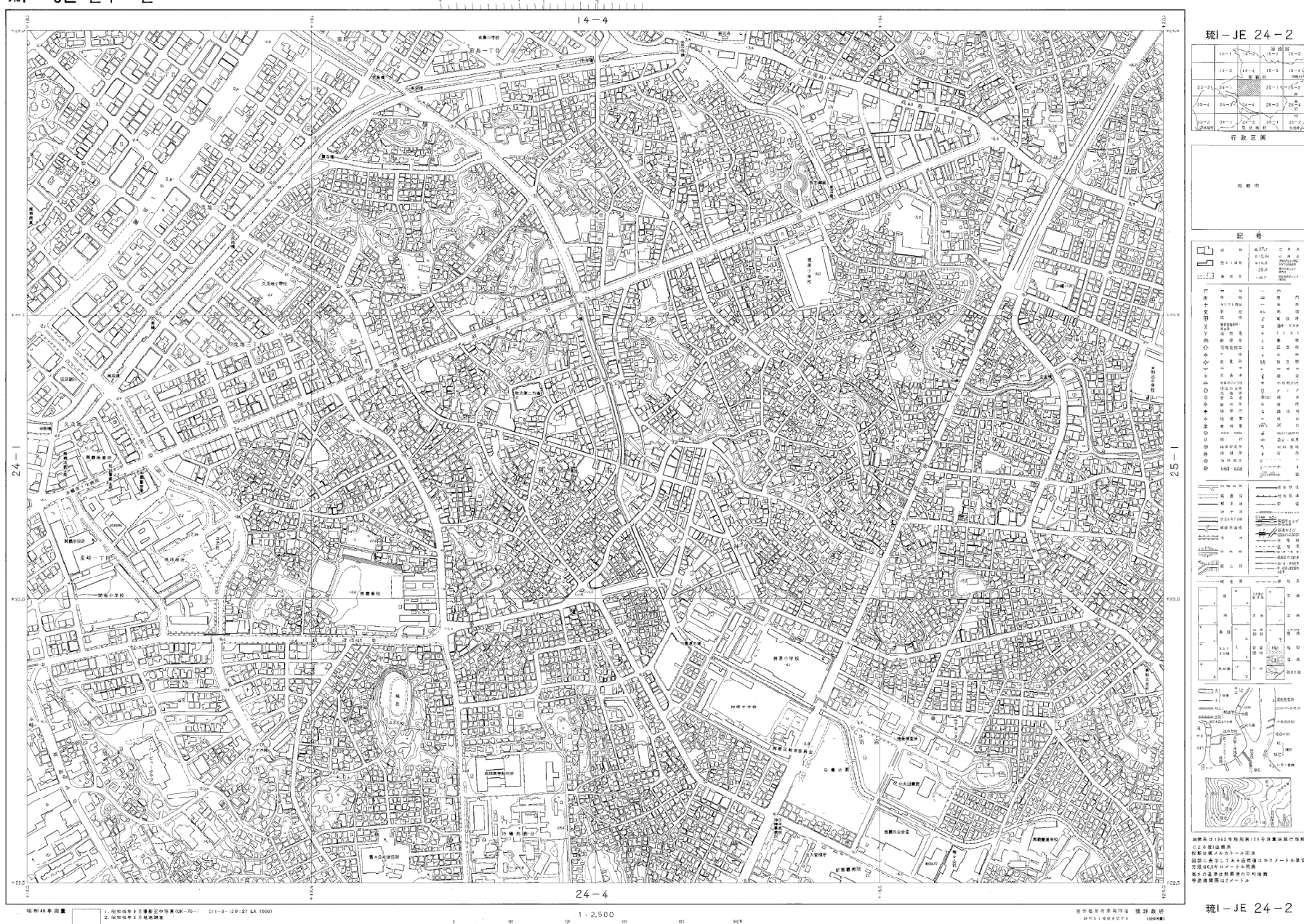


標石を交換後

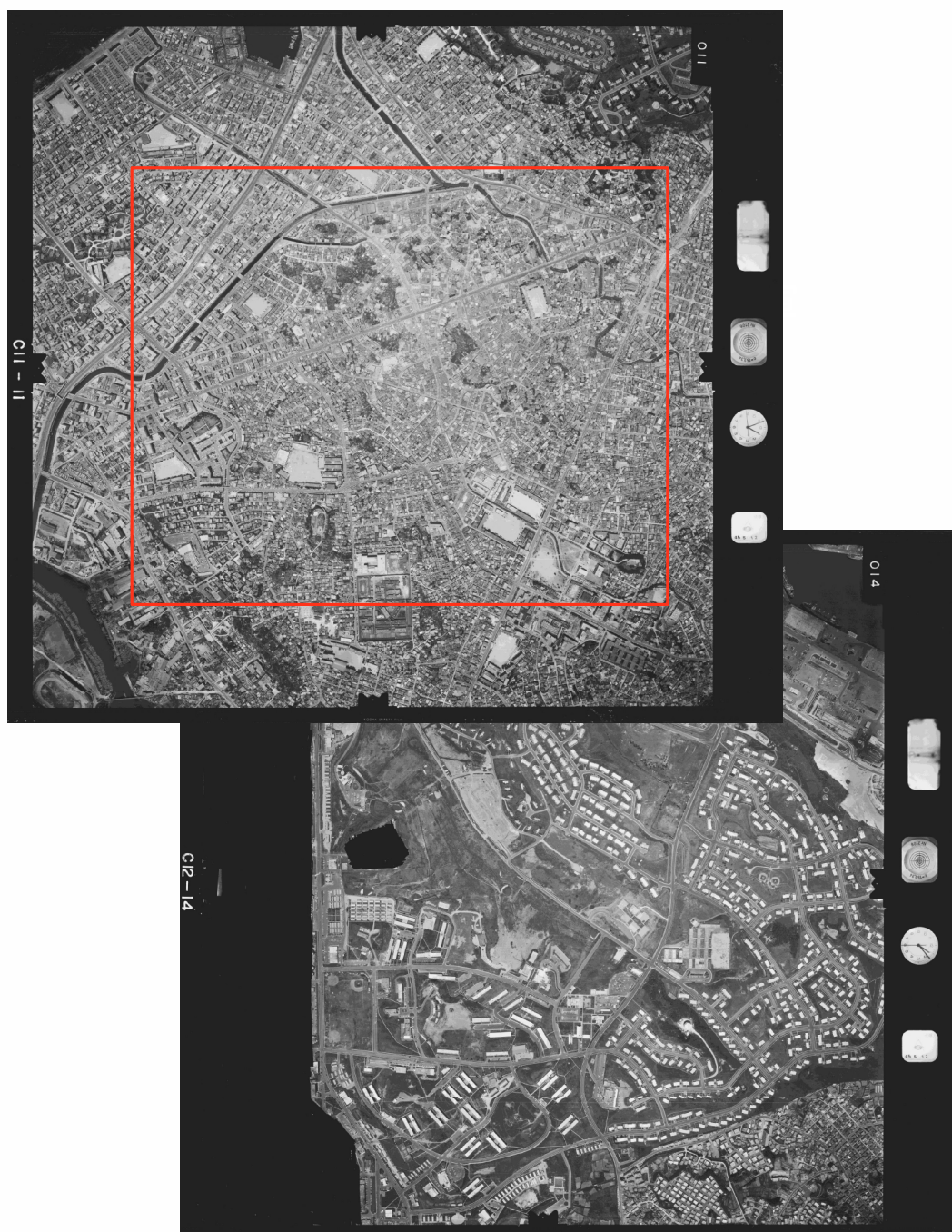
琉球政府が作成した国土基本図

1. 2千5百分1国土基本図(縮小) 昭和46年測量 琉球政府

1:2,500 国土基本図
琉I-JE 24-2



2. 空中写真(縮小) 昭和45年撮影



琉球政府は、昭和40年(1965年)頃、基準点測量や基本図作成のための基本計画を策定しました。特に地図の重要性などから空中写真の撮影計画を米国民政府に提出し、昭和44年(1969年)2月に条件付きで許可されました。琉球政府としては、初めての空中写真撮影です。また、撮影と平行して、国土基本図の作成が行われました。以降、昭和47年(1972年)5月の日本復帰に伴い琉球政府から国土地理院に測量成果は引き継がれました。

1.の国土基本図は、昭和46年に琉球政府によって作成されたものです。図名が「琉I-JE24-2」となっており、「琉I」は琉球政府で用いた平面直角座標系の番号「琉I~III」を示しています。

2.の航空写真の上側は、那覇市内です。赤線は上記の国土基本図の範囲を示しています。

下側は、同時期に撮られた航空写真です。写真の左側は黒く塗られています。米軍の重要施設については一般にはわからないように黒く塗られています。これも、撮影の許可条件の一つだったのでしょう。

琉球政府で修正を行った5万分1地形図

沖縄の2万5千分1地形図及び5万分1地形図は、大正10年(1921年)から戦前まで参謀本部^{さんぼうほんぶ}によって作成されていました。

終戦直後は地形図の修正は行われていませんでしたが、昭和37年(1962年)に初めて琉球政府によって^{おうきゅうてき}応急的な5万分1地形図の修正が行われました。

その後、昭和47年(1972年)5月に日本に復帰すると地形図などの測量成果等は国土地理院に引き継がれ、昭和48年(1973年)前後に全ての5万分1地形図の修正が行われました。

また、2万5千分1地形図は、復帰後、新たに作成されました。

ここには、大正10年に参謀本部が作成した5万分1地形図「那覇」(コピー)、昭和36年(1961年)に琉球政府が応急修正した「那覇」、昭和47年に国土地理院が修正した「那覇」を並べましたので見比べてみてください。



(キーストンスタジオ提供那覇市歴史博物館所蔵)

琉球政府庁舎(中央) 1950年頃撮影